

群馬県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表（令和6年度版）

（様式）

| 指 針                                 |                                          |                                                                                               | 関係する<br>分野等               | 方 策                                                                                                                                        | 点検・評価    |             | 達成度 | 達成状況の分析                                                                                                                               | 学校関係者評価                                                                                               | 次年度の課題                                                                                                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価対象                                | 評価項目                                     | 具体的数値項目                                                                                       |                           |                                                                                                                                            | 自己<br>評価 | 外部ア<br>ドラー等 |     |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                                                                                           |
| Ⅰ 幼児児童生徒の地域に於ける豊かな生活の実現に向けて努めていますか。 | 1 保護者、地域、関係機関と学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。   | ○ 学校からのおたよりや連絡帳等から「学校の様子」がよく分かる。と80%以上の保護者が答えている。                                             | 小学部主事<br>中学部主事<br>事務係     | ○ 各種通信（学校・学部・学級）、各種便り（保健・進路）、学校から子ども等への様子を発信し、たり、連絡帳、電話、SNS等で保護者と丁寧なやり取りを行っている。                                                            | A        | A           | A   | ○ 回答のあったアンケートでは学校の様子が「よく分かる」「だいたいよく分かる」が98%を超えた。SNS活用も浸透しつつある。                                                                        | ○ 先生方が一人一人に寄り添ってみられている。保護者に対してもしっかりと子ども等も寄り添っている確かなアライズをもらえておかげだ。配布物は丁寧に基かれています。いつまでに提出するか等についてよく分かる。 | ○ SNSの活用が広がる中で、セキュリティ面についても意識を高め、より一層、丁寧かつ迅速に情報発信していく。                                                                    |
|                                     |                                          | ○ 80%以上の保護者が学校行事やPTA活動等に参加している。                                                               | 渉外部<br>PTA係               | ○ 各種委員会で保護者の意見を吸い上げ、学校行事やPTA活動等への参加の仕方や日程・時間等の改善を行う。                                                                                       | B        | B           | B   | ○ 専門部ごとの活動やきりのこまごまでPTA企画を行うことができた。約78パーセントの保護者が学校行事やPTA活動に参加していると回答し、目標数値には届かなかった。                                                    |                                                                                                       | ○ PTA活動への参加が少ない学年もあり、活動内容や方法について周知していく。また内容や方法について参加しやすいものになるよう見直しをしていく。                                                  |
|                                     | 2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。  | ○ 「個別の教育支援計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて計画を作成するために、教師が保護者のニーズや心情に寄り添う支援を行い、80%の保護者から有用であると評価を得ている。 | 学習指導部<br>学習指導係            | ○ 「個別の教育支援計画」の立案に当たって、個別面談や連絡ノートでのやり取り等を通じて、保護者の思いや意見を丁寧に汲み取り作成する。また、修正をする場合には、学年・学部で十分に検討を行い、保護者との共通理解を図る。                                | A        | A           | A   | ○ 約99%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。個別面談や連絡ノート等でのやり取りを通じて、保護者のニーズや心情に寄り添い、保護者との共通理解に基づいた支援内容を設定して取り組むことができた。                           | ○ 伊勢崎市はR7年度から移動支援事業始める。保護者の負担を減らせるように連携してやっていきたい。保護者の意見を市に伝えてほしい。                                     | ○ 引き続き、保護者と丁寧に情報交換や共有ができるようにする。また、学校、保護者、関係機関が連携しながら支援を行えるように、必要に応じて個別の教育支援計画の情報を関係機関と共有することを周知していく。                      |
|                                     |                                          | ○ 居住地校交流について、希望する保護者の80%以上が子どもにとって有用であると感じている。                                                | 渉外部<br>交流係                | ○ 相手校と事前に情報交換をし、交流のポイントについて十分な打ち合わせをもとに実施し、その成果等を保護者を含め共有する。                                                                               | A        | A           | A   | ○ 居住地校交流に参加した約82パーセントの保護者が、同年代の友達を知った地域とのつながりをもったできたという質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した。                                                     |                                                                                                       | ○ 相手校の担当者や連携し、児童生徒にとって有意義な交流となるような活動内容を設定する。交流後に相手校や保護者と振り返りを行い、次回に生かす。                                                   |
| Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。     | 3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。       | ○ 地域の幼児小中学校や保護者に対する相談を、年間200件以上受けている。                                                         | 地域支援部<br>地域支援係            | ○ 保健師や心理士等専門家と連携して対応し、的確な実態把握に基づいて、お子さんや先生方のニーズに添った支援方法を提案する。                                                                              | A        |             | A   | ○ 未就学児の相談では保健師に同行を依頼し一緒に観察・相談を行った。外部専門家派遣も有効に活用し、各専門性を生かした支援に努めた。12月末時点相談件数196件、1月以降相談予定件数8件。                                         |                                                                                                       | ○ 次年度も関係機関と連携しながら相談対応していく。小学校からの転校に関する就学相談にあたっては、小学校と連携しながら対応することが必要である。                                                  |
|                                     |                                          | ○ 地域の幼児小中学校への情報発信として、地域支援だよりを半期に1回以上発行している。                                                   | 地域支援部<br>地域支援係            | ○ 訪問相談等の機会を通して、幼児小中学校の課題を把握し、地域のニーズに添った情報提供をできるようにする。                                                                                      | D        |             | D   | ○ 今年度は地域支援だよりを発行できていない。訪問相談・来校相談の際に、必要があれば相談先機関などの情報提供をしている。                                                                          |                                                                                                       | ○ 地域の幼児小中学校の課題を吸い上げ、相談業務の他に、地域支援だより等を通して必要な情報を発信できるようにする。                                                                 |
| Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。   | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。                  | ○ 個別の指導計画の立案・評価について、児童生徒の実態に応じた指導を実施できるよう、学年・学部で共通理解と検討を年3回行っている。                             | 学習指導部<br>学習指導係            | ○ 適切な実態把握をもとに、学年・学部での共通理解を図り、前期・後期の目標や評価が適切かどうか（見直しをもとに、「やってみよう」「わかった」「できた」が実施できる授業等）検討を行う。                                                | A        | A           | A   | ○ 約99%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。学年や学部間で共通理解を図り、検討を重ねながら個別の指導計画の立案や評価ができた。                                                          |                                                                                                       | ○ 適切な実態把握や目標設定、評価が行えるように、引き続き、学年や学部間で検討や見直しを行い、学習状況に応じた授業改善を図っていくようにする。                                                   |
|                                     |                                          | ○ キャリア教育やキャリア発達についての理解を深め、資料作成や活用を通して80%以上の教師が授業にキャリア教育の視点を明確に取り入れたと答えている。                    | 研修部<br>校内研修係              | ○ 指導主事や福祉サービス関係者等からキャリア教育や教後の連絡等に関する研修を聴講する。<br>○ グループ別研修を企画し、抽出した児童生徒のキャリア発達に関する資料を作成・グループ協議を複数回行う。                                       | B        |             | B   | ○ 教員のキャリア教育・キャリア発達に関する知見を広めるための研修を行った。<br>○ 将来像をイメージでき、職員が自分事として捉えられるような研修内容を検討したが、具体的な将来像をイメージすることは今年度は難しかった。                        |                                                                                                       | ○ 明確な根拠をもって実際の指導に取り組みるように、引き続きキャリア教育・キャリア発達に関する研修を進めていくとともに、職員自身の取り組みをアウトプットできるようなワークショップを取り入れた内容にも取り組むようにする。             |
|                                     | 5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。              | ○ 児童生徒が「やってみよう」「わかった」「できた」と実感できる授業を実施し、「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。                          | 学習指導部<br>学習指導係            | ○ 適切な実態把握をもとに、指導内容や目標を設定する。また、児童生徒の学習状況をもとに指導内容や手立て等について見直し、授業改善を図る。                                                                       | B        | A           | A   | ○ 約97%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。実態に応じた指導内容や手立て等の工夫で授業を行い、個別の指導計画の目標を概ね達成することができた。                                                  | ○ 生活単元学習では、児童生徒達に合ったものを取り組んでいる。小学部は、系統的な行事を行っている。                                                     | ○ 学級や学年間等の学習集団での児童生徒の実態に関する情報共有や授業検討を通して、指導と評価をつなげた授業づくりや授業改善を一層図っていくようにする。                                               |
| Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。                 | 6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。                | ○ 日々の学校生活における健康に関する配慮や対応について、80%以上の保護者が適切に行われていると回答している。                                      | 保健部<br>保健係                | ○ 怪我や体調不良等への対応、保護者への報告については養護教諭や管理職と確認の上、行うようにする。<br>○ 「連絡ノート」で体調面について保護者と情報交換したの「ほけんだより」等を活用し、健康管理、感染症等に関する情報を保護者と共有したりすることで健康への意識の向上を図る。 | A        | A           | A   | ○ 学校評価アンケートでは「連絡ノート」での健康に関する情報交換について100%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。日々の体調管理についても、担任が養護教諭や管理職と相談・連携しながら、必要であれば保護者に相談するなど細やかな配慮ができていた。 |                                                                                                       | ○ 今後も児童生徒の健康管理について、養護教諭や管理職との相談を学校として徹底していくことや、連絡ノートを含む保護者へのきめ細かい配慮ができるようにしていく。                                           |
|                                     |                                          | ○ 引き渡し訓練では、工事の進捗状況に応じた対応をとるため、引き渡しマニュアルにもとづいた確実な引き渡し方法について、学校と保護者で共通理解を図り、実施することができた。         | 安全部<br>防災係                | ○ 引き渡しカードの作成及び更新等を通して、保護者に周知を図るとともに、工事の進捗状況に応じた対応をとり、職員会議等で職員に周知を図る。                                                                       | A        | A           | A   | ○ アンケートの結果より、訓練に参加した人で、手順の理解ができた「だいたいできた」と回答した人は、保護者が98%、職員が100%だった。                                                                  |                                                                                                       | ○ 訓練を繰り返すことで、手順等を理解してもらう。職員には、写真などを利用し共通理解を図ったり、引き渡し時の記録の取り方などを分りやすくしたりする。今後も工事の影響があると思われるため、日頃から注意し、声をかけして行く必要がある。       |
|                                     | 7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。           | ○ 避難訓練、消火栓研修、不審者対策の研修を計画し、訓練や研修を通して、90%以上の職員が児童生徒の避難誘導など各自の役割を理解している。                         | 安全部<br>防災係                | ○ PDCAサイクルを機能させた避難訓練を実施し、児童生徒の実態に即した訓練の充実を図る。職員一人一人が危機管理意識を持てるよう、訓練後のアンケートを実施する。                                                           | A        | A           | A   | ○ アンケートの結果より、98.6%の職員が「できた」「だいたいできた」と回答。                                                                                              | ○ 災害時に安全に対応できるように取り組まれている。日頃から対応していけると良い。                                                             | ○ 避難訓練を重ね、明らかにした課題に対応し、計画に反映させていく。不測の事態に対応できるように、職員一人一人の意識を高められるようにする。工事の影響で避難経路などに変更が出ると思われるため、日頃から注意し、声をかけして行く必要がある。    |
|                                     |                                          | ○ 救急搬送訓練や心肺蘇生法等の訓練を年間で各1回以上実施している。                                                            | 保健部<br>保健係                | ○ 救急搬送マニュアルを見直し、搬送までの手順を分りやすくしたり、実施後の話し合い等を充実させ、改善点を共有できるよう働きかけたりする。                                                                       | A        | A           | A   | ○ 救急搬送訓練については各学年年間1回以上実施しており、98.6%の職員が救急搬送訓練改善点の共有について「できた」「だいたいできた」と回答している。                                                          |                                                                                                       | ○ 次年度は養護教諭はアドバイザーとして参加をし、訓練の様子を見た後に反省点などについて意見をすることで、それぞれの教員が客観的に改善点について振り返れるようにしていく。                                     |
|                                     | 8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。                  | ○ 保護者の90%以上が、学校はいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると答えている。                                             | 生徒指導部<br>生徒指導係            | ○ 年度当初の児童生徒紹介を始め、隔月ごとのいじめ対策委員会等で各学年の様子を報告し、情報の共有を図る。児童生徒の人権を尊重し、自己有用感を高める支援を行うことで、児童生徒の心理的安定を図り、いじめを防ぐ。                                    | A        | A           | A   | ○ 第1回アンケート結果が「そう思う」50%、「だいたいそう思う」41.7%で、計91.7%。第2回アンケート結果が「そう思う」51.1%、「だいたいそう思う」43.5%で、計94.6%だった。                                     |                                                                                                       | ○ いじめ対策委員会で情報共有しながら、児童生徒のいじめの早期発見・対応・解決を図り、法に基づいた組織的な対応を徹底する。<br>○ いじめ防止対策推進法等について、職員に対する複数回の研修を行う。保護者へは、いじめ対策について情報発信する。 |
| Ⅴ 将来の生き方に結びつる進路指導を行っていますか。          | 9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。   | ○ キャリアパスポートを前期、後期で2回作成している。また、キャリア教育通信を年3回発行している。                                             | 進路指導部<br>キャリア教育係          | ○ キャリアパスポートを前期、後期で2回作成し、指導内容を整理しながら個に応じた系統的なキャリア教育を行う。また、キャリア教育通信を年3回発行し、保護者に本校のキャリア教育を周知し、理解と協力を得られるようにする。                                | A        | A           | A   | ○ 第2回アンケート結果では、「そう思う」64.4%、「だいたいそう思う」33.1%であった。「キャリア教育通信」は現在3号まで発行済みであり、年度末までにあと2号分の発行準備を進めている。                                       |                                                                                                       | ○ 「キャリア教育通信」として今年度は各学部の取り組みを発信した。来年度以降の内容の検討が必要。「キャリア教育」について保護者や教員に知ってほしいことを精選して発信できるようにする。                               |
|                                     | 10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。 | ○ 進路指導に関する行事を年5回以上実施している。                                                                     | 進路指導部<br>進路指導係<br>キャリア教育係 | ○ 実際の事業所における現場実習、外部講師による進路選択の関心を高める授業や保護者向けの講演会、本人と保護者と担任による進路相談会等を行う。                                                                     | A        | A           | A   | ○ アンケート結果では、進路情報が参考になっている「なっている」と答えた保護者が53.3%、「なっていない」と答えた保護者が36.7%で、計92.5%であった。                                                      | ○ 中3年現場実習や中1、2年校内実習を行った。職員向けの校内研修や外部講師による講演会などを行った。中3生対象の進路学習や、中1、2年対象の進路相談会も実施した。                    | ○ 進路指導の情報では、定期的に情報発信をすることができているが、内容の精選や工夫も行う。キャリア教育通信に統合し、より内容を精選した情報発信を目指すことを考える。                                        |